

# 節電限界 悲鳴続出

## 北電値上げ公聴会

### 「病院経営が崩壊」「困窮者の命に直結」

経済産業省が20日、札幌市内で開いた北海道電力の電気料金値上げに関する公聴会で、次々に上がったのは、電気代高騰にあえぐ消費者や医療機関の切実な声だった。現行の料金システムによって以降の過去27年で最も高い水準に達している電気代を、さらに上げざるを得ないと説明する北電。「医療機関が経営難で崩壊する」「自助努力の節電も限界だ」。電気代高騰は広範囲の道民生活に既に深刻な影響を与え、苦境からの出口は見えない。(1面参照)

## フォーカス FOCUS



医療現場からの悲鳴な訴えや北電の経営努力を求める声が相次いだ公聴会。20日、札幌市白石区(石川崇子撮影)

「このままでは病院経営が立ち行かなくなる」。北海道医師会の鈴木伸和副会長は電力消費が大きい機器を

マシオン 恵美香さん(60) 釧路市、脱原発をめざす北電株主の会代表	泊原発は10年以上も停止しており、万全の安全対策が必要だ。ただちに廃炉に着手するのが経済的。値上げを受けて消費者が節電した分減収し、さらなる値上げにつながらないことを願う
鈴木伸和さん(61) 札幌市中央区、北海道医師会副会長	急激な物価高騰の影響を診療報酬に転嫁できず経営努力で対応しているが、すでに極めて困難な状況になっている。電気代値上げは在宅の患者の療養生活にも影響を与えかねない
本間 允秀さん(78) 千歳市、札幌消費者協会理事	石油、石炭、天然ガスといった化石燃料は輸入に大きく依存し、電気代は常に外国の情勢に左右される。輸入資源に頼らず、地熱やバイオマス、水力発電の導入拡大を進めるべきだ
松田 宏二さん(56) 札幌市西区、医療法人 溪仁会常務理事	医療現場では24時間365日一定のサービスを提供する必要があり、患者に節電を強いることはできない。実情を理解し激変緩和策の検討や値上げ基準を見直してほしい
釜沢剛豊さん(44) 札幌市中央区、フードバンク事業のグループ代表	コロナ禍や物価高で支援を求めている子ども、困窮者は増えているが、われわれも電気代が上がって苦しい状況だ。北電の社長に生活困窮の現場を見てほしい
平照治さん(65) 札幌市北区、北海道生活協同組合連合会専務理事	公営的な性格を持つ電気料金の値上げは抑制的に行われるべきだ。泊原発が停止していても北海道はやってこられた。新エネルギーへの転換を求めたい
武野伸二さん(68) 札幌市北区、北海道消費者協会専務理事	電気代の値上げは道民の暮らしを圧迫する命にかかわる問題だ。物価高に苦しむ道民に寄り添うならば北電の報酬や給与は大胆に見直すべきだ

多数抱えるが、値上げ分を診療報酬に計算もできず、大幅な負担増は経営を圧迫する。「人口が少ないマチの病院がなくなる可能性が」。道内全体の医療体制への影響も大きい。

### 致命的負担

鈴木副会長自身、札幌市手稲区でついで泌尿器科を経営する。外来患者は1日約100人で人工透析患者も受け入れ、入院病床は19床。既に2022年度の電気料金は前年度比で2割増の900万円に上った。取材に対し、北電が申請した6月からのさらなる値上げは「致命的な負担」と漏らした。

医療法人 溪仁会(札幌)の松田宏二常務理事(56)も意見陳述で電気代高騰の深刻さを語った。運営する道内の系列病院の22年度の電気料金は前年度から1億5千万円増え、6億円余りに。23年度はさらに1億3千万円増えるとの試算を提示。こまめな消灯や省電力の蛍光灯の使用など工夫を重ねるが「治療中の患者に節電を強いることはできない」。

### 再稼働だけ

北電に対し、徹底した経営努力や役員報酬の減額などの注文も続出した公聴会。藤井裕社長が電気代を下げられる見通しを示したのは、12年から運転停止している泊原発(後志管内泊村)1〜3号機の再稼働に触れた場面だけだった。藤井社長は「泊原発の再稼働後には適正な水準で値下げする」と断言した。

## 道外各社でも反発の声

### 経産省の判断材料に

北海道電力を含む値上げを申請した大手電力7社の公聴会は、20日に実施された北電分ですべて終了した。意見は経済産業省が値上げ幅を判断する材料の一つとなる。

値上げ申請後の公聴会開催は電気事業法で義務付けられている。経産省の主催で、1月の沖繩電力を皮切りに、北電が電力7社で最後の開催となった。先行して開催された道外の公聴会でも、「暮らしへの影響が大きく、認めることはできない」「値上げは死活問題になる」などと、北電と同様に値上げに反対する厳しい声が続出した。燃料価格は昨秋をピークに下落傾向にあり、直近の燃料価格を反映させて値上げ幅を圧縮するよう求める声も強い。

公聴会の意見を踏まえ、経産省は3月に電力各社に対し、直近の燃料価格で値上げ幅を再計算するよう異例の指示を出している。(三坂郁夫)

再稼働して値下げにつながらなくても「電気代を下げるには原発再稼働しかない」と喉元にナイフを突きつけられているような感じがする」と複雑な感情もみぞかされた。北海道生活協同組合連合会の平照治専務理事(65)は「北電には、北海道の潜在力が高い自然エネルギーを利用してほしい」と求めた。(武藤里美、五十地隆造、麻植文佳)